

組織と知財（東京）

～イノベーションやビジネスが組織を超える時代に求められる知財業務を探究する～

【講座コーディネーター】

高橋 真木子（たかはし まきこ）

金沢工業大学 大学院 イノベーションマネジメント研究科教授



担当
講師

【担当講師】

第1回：野村 恭彦（のむら たかひこ）

金沢工業大学 大学院 イノベーションマネジメント研究科教授

第2回：三谷 宏治（みたに こうじ）

金沢工業大学 大学院 イノベーションマネジメント研究科教授

第3回：守屋 実（もりやみのる）

守屋実事務所代表

実施
日程

第1回：2018年12月8日（土）16:00~19:15
第2回：2018年12月15日（土）16:00~19:15
第3回：2019年1月19日（土）13:00~16:15

受講料

30,000円（税込・テキスト代込）

対象者

- ・オープンイノベーションやプラットフォームビジネスの台頭といったビジネスの潮流を理解したい方
- ・先端的なビジネス領域で必要とされる知財の専門家になりたい方
- ・AIの時代に求められる弁理士像、AIに代替されない知財業務を探究したい方

<p>概要 ねらい</p>	<p>21世紀に入り、技術や商品・サービス、ビジネスモデルのイノベーションが生じる場が単一の企業（組織）という閉じた領域から、多様なステークホルダーが絡むオープンイノベーションと呼ばれる複雑な領域へと移行しています。また、多様な企業の商品・サービスを提供する基盤（プラットフォーム）を形成するプラットフォーマーと呼ばれる企業が台頭しており、複数の組織、企業が関わる領域、組織の壁が曖昧な領域で知的財産が創出され、活用されるようになっていきます。</p> <p>一方、事務作業は高度専門的なものであっても人工知能（AI）に代替されていくと予想されており、今後、知財のプロに求められる能力は、これまでの高度専門的な知財“事務”処理能力から複数の組織が絡み合う複雑な領域や急速に変化するビジネス環境を理解し、対応する能力になると考えられます。</p> <p>本講座では、これまでに登場してきた様々なビジネスモデル、イノベーションについて学ぶとともに、複数の組織が関係する領域において知財のプロに求められる役割や知財業務のあり方を探究することにより、複合領域、変化するビジネス環境に対応できる知財のプロの育成を図ります。</p> <p>具体的には、第1回で、イノベーションが生じる場が従来の閉じた組織から多様でオープンな場へと変化していることを踏まえ、組織の壁が曖昧な協創型イノベーションという場に体験しながら協創型イノベーションにおいて知財のプロが果たす役割を探究します。第2回では、ビジネスモデルや商品・サービスについてどのような変革（イノベーション）が生じてきたかを学びます。第3回では、新規事業の創出・成長過程において、どのようにビジネスモデルが構築され、知財制度が用いられたかを講義で学ぶとともに、事前課題を題材とした演習により、組織を超えた繋がりを要するビジネスモデルにおける知財制度の活用について探究します。</p> <p>（注）本研修は、複雑で不確実性が高い領域において、ビジネスリーダーと対等に議論するための幅広い知識の取得や、ビジネス環境の変化に応じた新しい知財戦略を創造するための思考力の育成に力点を置いており、「今すぐ役立つ知財実務のHow to」を習得することを目的とするものではありません。</p>
<p>到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一企業内に閉じない、オープンで複雑な領域で知財が創出され、活用されるようになっていくことを理解する ・企業が収益を得るために構築するビジネスモデルは多様であり、ビジネスモデルごとに適応的な知財戦略は異なることを理解する ・ビジネスモデルを理解する方法を学び、顧客企業のビジネスモデルを“見える化”し、どのような仕組みや資産が利益の源泉となるかについて、クライアント企業と議論できるようになる
<p>形式及び内容 (予定)</p>	<p>【第1回】「協創」の時代～未来をつくる知財プロの協創プロセス」</p> <p>講師：野村 恭彦氏（金沢工業大学大学院 教授）</p> <p>（形式） 講義&演習</p> <p>（概要）</p> <p>2000年代以降、ハッカソン、アイデアソン、フューチャーセッションといった協創の場が出現し、企業も事業創造や商品開発などにそうした協創の場を利用するようになっていく。さらに、大企業と複数のベンチャー企業のダイナミックなマッチングや、企業が市民やNPO、自治体などと対話し協力して新サービスを生み出す、セクター横断の協創の場も広がってきている。この背景には、IoT、ビッグデータ、スマートシティ、地域マネー、シェア経済、自動運転などの多くのイノベーションが、都市をフィールドにする特性がある。このように、ビジネスモデルもステークホルダーも多様化する中、企業の知財部門は大きなマインドチェンジ、役割の転換を迫られている。弁理士には企業勤務・事務所勤務に関わらず、そうした変化への理解、そうした変化に応じて知財のプロの役割はどう変わっていくのか、自ら答えを出すことが求められる。このような問題意識のもと、受講者同士の“協創の場”を通して、知財プロとしての新たな“協創プロセス”を受講者の皆さんと“協創”する。</p> <p>（事前課題）</p> <p>企業が事業/商品開発に“協創”を取り入れた事例（実在でも想像でも可）を一つ挙げ、「知財プロ」としてどのような「新しい価値提供」を提案できるかのレポート（A4用紙1～2枚）を作成し、プリントしたものを1部持参する。</p>

【第2回】「イノベーションとビジネスモデルの3つの関係」

講師：三谷 宏治氏（金沢工業大学大学院 教授）

（形式） 講義&演習

（概要）現代は第四次産業革命、イノベーションの時代と言われるがその本質はなんなのかを、ビジネスモデル論と絡めて概説する。新旧さまざまなビジネスモデルの紹介とミニ演習を通して、イノベーションとはビジネスをどう変えることなのか、経営面及び人材面で体感・理解する。一部、それらと知的財産の関わりについても論ずるが、主眼はビジネスそのものの理解力を上げることである。

具体的には、イノベーションやビジネスモデル理解のフレームワークを紹介した後、種々のビジネスモデル演習を個人及びグループ単位で行い、全体で議論することを繰り返す。また、そこで求められる試行錯誤力のための発想力技法（発見と探究）を紙コップ演習等で行う。

（注）7/12に関東支部で行われた研修と重複する内容を含みます。同研修を受講した方が本講座を受講される場合、同研修について改めて確認したい点、より理解や検討を深めたい点などを明確にし、それらを明確化するために本講座を活用してください。

（事前課題）なし

当日、筆記用具とハサミを持参すること。

【第3回】新興企業のビジネスモデル、競争優位性の確保と知的財産制度の活用

講師：守屋実氏（守屋実事務所 代表 新規事業開発者）

（形式） 講義&演習

（概要）

約50件の新規事業の創出に携わってきた講師の講演から、新規事業を創出・成長させる際に事業創造者がどのように競争優位性を創り出し、知的財産制度をどのように活用しているかを学ぶ。

また、講師が実際に携わった新事業について、ビジネスモデルと知財の活用について検討するとともに、ビジネスモデルを変化させる（特に他社との連携を要するタイプに変化させる）場合、知財活用がどのように変化するかを検討する。

（事前課題）

（株）サウンドファンのミラリスピーカー（<https://soundfun.co.jp/>）について、

- ① 現在のビジネスモデルと、そのビジネスモデルで競争優位を保つための知財戦略の要点をA4用紙1～2枚で作成
- ② ビジネスモデルを従量課金制モデルまたはプラットフォーム・モデルに変革することにした場合*のビジネスモデルと、そのビジネスモデルで競争優位を保つための知財戦略の要点をA4用紙1～2枚で作成

それぞれをプリントアウトして1部、持参する。

※例えば、IoTを用いて音源と通信することで、音源からの音質や音源から流した時間に応じた課金が可能となると考えられる。また、音を必要とする催し（イベントや研修など）のプラットフォームを構築すれば、プラットフォーム・モデルが成立すると考えられる。

事前読込
テキスト
(必須)

三谷 宏治、『ビジネスモデル全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014年
または
三谷 宏治、『マンガビジネスモデル全史（上・下巻）』PHP研究所 2018年

参考書籍
参考資料

Dave Gray 他、『コネクトー企業と顧客が相互接続された未来の働き方』オライリージャパン 2013年
立本 博文『プラットフォーム企業のグローバル戦略』有斐閣 2017年

◆高橋 真木子氏

(金沢工業大学 イノベーションマネジメント研究科 教授)



東工大、東北大、(独)理化学研究所等の在籍約 20 年間に、国プロ、複数企業との共同研究開発のプロジェクトマネジメント、技術移転、研究推進支援に携わる。大学における研究推進支援の専門人材リサーチ・アドミニストレーターの必要性を広め、2014 年 RMAN-J の設立に関わり副会長を務める。また産学連携活動を研究対象とし、NISTEP(文部科学省科学技術・学術政策研究所)、東京大学政策ビジョン研究センター客員研究員、中央教育審議会委員、産業構造審議会委員、JST プログラムオーガナイザー等を兼務。**専門分野** 技術・知識移転など。東北大学大学院修了、博士(工学)

◆野村 恭彦氏

(金沢工業大学 イノベーションマネジメント研究科 教授)



慶應義塾大学理工学部計測工学科卒業、慶應義塾大学大学院理工学研究科 開放環境科学専攻 後期博士課程修了。富士ゼロックス株式会社にて同社の「ドキュメントからナレッジへ」の事業変革ビジョンづくりを経て、2000 年に新規ナレッジサービス事業 KDI を自ら立ち上げ、シニアマネジャーとして 12 年にわたりリード。2012 年 6 月、グローバルなフューチャーセンター・ネットワークを構築し、企業、行政、NPO を横断する社会イノベーションをけん引するため、株式会社フューチャーセッションズを立ち上げる。

著書に「フューチャーセンターをつくろう」、「イノベーション・ファシリテーター」(ともにプレジデント社)、監修に「シナリオ・プランニング——未来を描き、創造する」、「発想を事業化するイノベーション・ツールキット」(ともに英治出版)など多数。

◆三谷 宏治氏

(金沢工業大学 イノベーションマネジメント研究科 教授)



東京大学理学部物理学科卒、INSEAD MBA 修了。

BCG、アクセンチュアを経て現職。アクセンチュアでは戦略グループ統括を務める。06 年からは「教育」領域に専念。社会人の他、子ども・親・教員を対象に様々な教育活動中。著作多数。『経営戦略全史』はビジネス書大賞 2014 大賞、ダイヤモンド HBR ベスト経営書 2013 第 1 位。『ビジネスモデル全史』は同 2014 第 1 位。放課後 NPO アフタースクール、NPO 法人 3keys 理事。永平寺ふるさと大使。

◆守屋 実氏



明治学院大学卒業。1992年、株式会社ミスミ（現ミスミグループ本社）に入社。新市場開発室で、新規事業開発に従事。メディカル、フード、オフィスの3分野への参入を提案後、自らはメディカル事業の立ち上げに従事。2010年守屋実事務所を設立。新規事業創出の専門家として、これまでの30年間で49件の新事業立ち上げに参画。『守屋実のザ・イントレプレナーシップ』のあとがきには、「守屋実という人は、立ち上げた新規事業の数と質において双肩をなす者がいない。」と紹介されている。